

## 公開講座開催結果と今後の計画

## 1. マイクロプラスチック公開講座開催結果

## (1) 内容・周知方法など

内容	
開催日時	令和3年7月31日(土) 15:00~17:00
参加人数	延べ98名(ZOOM参加者:77名、会場参加者:21名、事務局含む)
参加地域	13都道府県(北海道、山形県、茨城県、山梨県、千葉県、東京都、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、大阪府、兵庫県、福岡県、)
印刷部数	・各地域部会(山・川・海)WGにて配布 (各300部ほどずつ)
チラシ配布先	・子どもの本専門店 ・岡崎市図書館 ・市民交流センター ・愛知・川の会 ・全国川ごみネットワーク ・22世紀奈佐の浜プロジェクト ・三河淡水生物ネットワーク 等

## (2) 事前打合せと当日の様子

パネリスト登壇者や講演者と事前打合せを行った。スタジオ会場は、kabo. (豊田市) で行った。



写真 1-1 事前打合せと当日公開講座の様子

## (3) 反省点など

- ・(例) マイク・カメラの配置や使用方法について、スタジオ参加者には事前レクチャーが必要だった。
- ・
- ・
- ・
- ・

## 2. 今後の計画について

### 2.1 公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」開催後の検討

#### 2.1.1 矢作川流域圏懇談会での活かし方

公開講座をふまえ、8月4日に開催された海部会 WG では、東幡豆の海岸を視察し、海ごみの状況等について意見交換を行った。



写真1 港内・海水浴場（砂浜）の漂着ゴミ（PB他）



写真2 同左（ヨシ破片・塵芥、肥料袋）



写真3 風波と上げ潮で岸壁に集まったアオサ（約37m²）



写真4 トンボロ干潟の砂浜（満潮線付近）での観察



写真5 自然のゴミ\*（生物遺体など）



写真6 人工のゴミ（プラスチック類）と「流域ものさし」



写真7 海ごみの種類・構成をみる近藤氏



写真8 同左、人工の漂着ゴミ（左の2皿）



写真9 自然のゴミ\*（中央の皿）と人工のゴミ（両側の皿）

(摘要) \* : 山栗の実、サンショウウニ（ウニ科）、ミル（緑藻綱）、アオサ属（緑藻綱）、テングサ目マクサ（紅藻綱）、オゴノリ（紅藻綱）、ヒラムカデ（紅藻綱）、オモダカ目アマモ、コアマモ、イシガニ（脱皮殻）、環形動物タマシキゴカイの卵囊（多毛類）、貝殻（二枚貝）：アサリ（多い）、バカガイ、シオフキ、マテガイ、カガミガイ、マテガイ、サルボウ、（腹足類）：ウミナナ科、ツメタガイ、ほか  
(野田 2021.8.4)

### 2.2 公開講座「アカトンボが危ない！ ～いま、水の中で何が起きているのか？～」の検討

- ① 開催日時（10月以降の土日）
- ② スタジオ会場の設置・場所について
- ③ 申込方法
- ④ その他



## 講師プロフィール

荻部 治紀氏 神奈川県立 生命の星・地球博物館 主任学芸員

神奈川県立生命の星・地球博物館 動物・植物グループ 主任学芸員

専門：昆虫系統分類学、保全生態学。

トンボや水生昆虫、甲虫類を中心とした昆虫の系統分類や、小笠原諸島や火山列島での昆虫研究で知られる。

小笠原諸島の固有昆虫をはじめ、絶滅の危機にある昆虫類の研究に早くから取り組み、外来種問題の解決や希少種の保全に向けた活動を全国で展開している。

環境省等の生態系保全関係の各種委員を務める等、希少昆虫の域内保全の第一人者である。

写真

## プログラム

- 00:00～00:00 第1部 挨拶(開催趣旨)、問題提起(市民部会)
- 00:00～00:00 第2部 講演内容  
国内のネオニコチノイド系農薬による生態系被害の実態
- 00:00～00:00 第3部 ディスカッション



## 矢作川流域圏懇談会とは？

流域圏懇談会は、山部会・川部会・海部会・市民部会で構成され、河川管理者だけでは解決できない課題に対して、流域一体となって取り組み、互いに連携し、いい川づくりと調和のとれた流域圏全体の発展につなげるための組織です。“流域は一つ、運命共同体”という共通認識のもと、治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理などの課題に対し、民・学・官の連携・協働で取り組みを行っています。

### 「市民部会」からのメッセージ

本公開講座は、「市民部会」が全面的に企画推進しています。流域圏全体の共通課題を、多くの人に知ってもらいたいという市民部会メンバーの想いから、この公開講座を開催することになりました。流域圏に住む方たちだけでなく、多種多様な方々の参加をお待ちしております。



会場 MAP

# プラスチックが 生き物を苦しめている

microplastics

no more Plastic



あなたは

## マイクロプラスチック問題の 原因を作っていませんか!?

マイクロプラスチック問題は、いまや、地球温暖化、気候変動に匹敵する緊急に対応すべき環境問題として挙げられています。マイクロプラスチックは、不法投棄されたプラスチック製品はもちろん、水田に撒かれる化学肥料を含むカプセルや、工業用研磨剤、化粧品に含まれているスクラブ材、合成繊維などから発生し、それらが河川や海に流れていき、海洋生態系に大きな影響を与えていることが分かってきています。本講座では、四日市大学環境情報学部教授の千葉氏を講師に招き、マイクロプラスチックの伊勢湾での広がり等の実態や新しい知見について、触れていきます。

講師

**千葉 賢 氏**

四日市大学環境情報学部 教授

令和3年 **7月31日(土)** 15:00~17:00

開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名

申込  
方法



①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村  
を必ず明記のうえお申込み下さい。

お申込みいただいた方に講座で使用する Zoom の URL をお知らせします。  
申込期限：7月21日(水) 17:00まで

**参加  
無料**

## ■講師プロフィール

千葉 賢氏 四日市大学環境情報学部 教授

東京都武蔵野市生まれ。  
東京大学工学部航空学科卒。同大学工学系研究科で学位・博士(工学)を取得。  
三井海洋開発(株)、(株)計算流体力学研究所、(株)海洋工学研究所を経て四日市大学へ。  
2003年より2007年まで三重県地域結集型共同研究事業「閉鎖性海域の環境創生プロジェクト」(通称:英虞湾プロジェクト)の環境動態シミュレーション部門の研究リーダーを務める。  
2016年より現在まで、三重県と共同で、伊勢湾の貧酸素水塊発生問題と漂流漂着ゴミの研究を続けている。



## ■プログラム

- 15:00~15:10 第一部 挨拶(開催趣旨)、問題提起  
15:10~16:20 第二部 ①マイクロプラスチックとは?  
②マイクロプラスチックの生態系への広がりについて  
(一般論+他の研究者の研究の紹介)  
③プラスチックごみとマイクロプラスチックによる伊勢湾の汚染  
④今後の対策~私たちに出来ることは何か?~  
16:20~16:50 第三部 ディスカッション  
16:50~17:00 第四部 閉会挨拶



## 矢作川流域圏懇談会とは?

矢作川流域圏懇談会は、山部会・川部会・海部会・市民部会で構成され、河川管理者だけでは解決できない課題に対して、流域一体となって取り組み、互いに連携し、いい川づくりと調和のとれた流域圏全体の発展につながるための組織です。“流域は一つ、運命共同体”という共通認識のもと、治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理などの課題に対し、民・学・官の連携・協働で取り組みを行っています。

### 「市民部会」からのメッセージ

本公開講座は、「市民部会」が全面的に企画推進しています。流域圏全体の共通課題を、多くの人に知ってもらいたいという市民部会メンバーの想いから、この公開講座を開催することになりました。流域圏に住む方たちだけでなく、多種多様な方々の参加をお待ちしております。



### 矢作川流域圏懇談会ホームページ



カメラをかざして QR コードを読み取ると、矢作川流域圏懇談会の HP にアクセスすることができます。読み取れない方は、以下の URL から、もしくは「矢作川流域圏懇談会」で検索をお願いいたします。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/kaigi/yahagigawa/ryuiki-kondan/>



矢作川流域のゆるキャラ  
はぎぼう

はぎぼうは、カエルの手とアユの口、ヒレをもツインシの子(うりぼう)。  
矢作川流域にすむ陸生、両生、水生の生き物を組み合わせ、流域の自然の豊かさを表しています。背中模様は「川」の字。ふだんはぼーっとしているけれど、矢作川のこととなると鼻息をフンフンさせながら熱く語る矢作川オタクです。